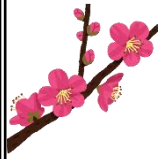


# 図書館だより



no.235

2022(令和4)年3月15日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



## 《震災から10+1年 関連展示》

震災から11年がたちました。当館では令和4年2月22日(火)から4月6日(水)の期間、所蔵している東日本大震災の資料を紹介、展示しています。ぜひご覧ください。

### 東日本大震災から10+1年展

**場所** 企画展示コーナー

東日本大震災の発災から10年が経過したことに合わせて、数々の資料が出版されました。その中から2021年に出版されたものを中心に、当館で所蔵する記念誌や体験記、写真集等を紹介し、この10年間を振り返ります。

### 平台展示「新聞で見る 東日本大震災10+1年展」

**場所** 館内中央平台展示コーナー

展示コーナー「東日本大震災10+1年展」と連携し、東日本大震災を新聞で振り返ります。新聞原紙を展示しますので、時間の経過でおこる紙の変色も確認できます。

震災からの年月を実感すると共に、新聞が伝えた東日本大震災をご覧いただけます。

### ロビー展示「東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示セットの紹介」

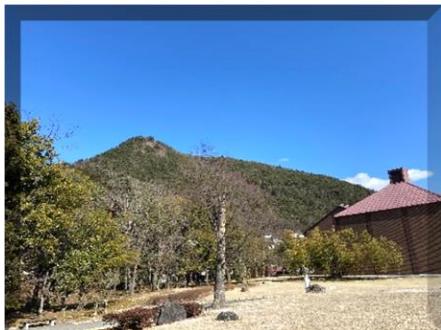
**場所** ロビー展示コーナー

東日本大震災福島県復興ライブラリーの出張展示用セットの中から、

- ①「忘れない。東日本大震災・福島第一原発事故(写真集中心に)」
  - ②「震災・原発事故…被災の体験を伝える(体験記中心に)」
  - ③「伝える。東日本大震災・原発事故の記憶」
- の3つのセットを展示し、貸出します。

## 敷地内

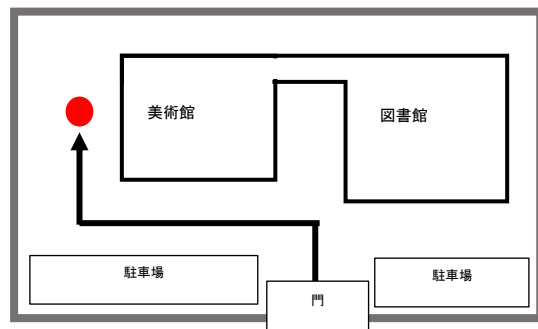
### ちょびっと美景



図書館・美術館の建物から向かって左側、お散歩にピッタリの場所があります。

休憩できる東屋があり、春になれば小川が流れます。晴れているときは、信夫山の方を眺めてみてください。真っ青な空と山のコントラストがきれいですよ！

建物から向かって左側にまっすぐ行って、  
右側に折れた場所にあります。



# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『編集をひもとく 書物観察の手引き』 田村 裕／  
編 武蔵野美術大学出版局 2021.11 021.4/㊦21Y

多くの本を眺めてみると、タイトルのレイアウト、本の大きさ、書体、綴じ方、色合いなど、どれも多種多様です。本著を読むと、それが、編集者によって明確な意図を持って、構成がされていることがわかります。また、書物編集の視点から、書物と関係深い印刷、紙、書体の進化によって書物とその編集がどのように変化してきたのかについても、述べられています。

本の内容と一緒に、その本がどのように編集され、どのような装丁が施されているのかに意識してみると、より味わい深く本を楽しむことができそうです。

『お味噌知る。』土井 善晴/著, 土井 光/著 世界文化  
ブックス, 世界文化社(発売) 2021.11 596.21/㊦21Y

味噌汁と聞くとどんなものを思い浮かべますか。ご家庭によって、使う具材と味噌の種類は様々だと思いますが、ご飯やおかずと一緒にいただく汁物という認識は共通しているのではないのでしょうか。

本書では、定番の具材で作る味噌汁の他にも、一品でおかずになる具沢山の味噌汁、パンに合わせる味噌汁、麺や餅を入れる味噌汁など、「味噌汁」のイメージがガラッと変わるレシピを多数紹介しています。

味噌の種類や具材ごとの下拵えについての簡単な解説もあり、一人分から気軽に作ることができるので、食生活を見直したい人はもちろん、これから自炊をはじめの人にもおすすめの一冊です。

『半藤一利 語りつくした戦争と平和』保坂正康/監  
修 東京新聞社 2021.11 210.6/㊦21Y

2021年1月に亡くなられた「歴史探偵」半藤一利氏の東京・中日新聞紙上で対談を、共著も多い保坂正康氏が監修してまとめています。

半藤氏の、明治以降の日本の政治・軍隊・戦争・平和に関する見識は、その体験や交流のみならず、膨大な資料を解説して培ったものであることを感じます。

「戦争は政治の失敗でしょう」という保坂氏の言葉、「歴史的教訓は全部、昭和史に書いてある」という半藤氏の言葉には、今、この時にかみしめたい重みがあります。

## 児童・児童図書研究

『旅の絵本 10』安野 光雅/[著] 福音館書店  
2022.1 P/㊦ミ

1977年のシリーズ刊行から45年、「旅の絵本」シリーズの第10弾、オランダ編です。2020年12月の安野さんの逝去後に、アトリエから見つかった原画や解説文が掲載されています。絵のページに文字はなく、見開きページで美しい風景やそこで暮らす人々が描かれています。

安野さんは、「人間は迷ったとき必ず何かを見つけることができると考え、迷うために旅に出た」と言っています。皆さんも悩み事があるときや気分が落ち込んだとき、絵本の世界に迷い込んでみませんか？

## 雑誌・新聞

東日本大震災から11年が経過しました。あの日のことを忘れず、未来へと伝え続けていくために、被災地の今に目を向けてみませんか。

### 『家の光』

第98巻第3号, 2022.3月号 Z/051/I2  
特集: 東日本大震災から十一年 復興と新しい時代

### 『同朋』

第74巻第3号, 通巻851号, 2022.3  
Z/188.7/D1

特集: 災害伝承—あの日の体験を未来へ伝える

### 『歴史地理教育』

通巻936号, 2022年3月号 Z/375.3/R2  
特集: 東日本大震災を学び、伝え続ける

### 『ATOMOS』

第64巻第2号, 通巻752巻, 2022.2月号  
Z/539.09/A1

持論: 福井県で育った大学生が見た福島県

## 地域

『フラ・フラダンス』八坂 圭/ノベライズ  
KADOKAWA 2021.10 L913.6/Y33/1

本書は昨年12月に公開された映画「フラ・フラダンス」のノベライズ作品です。主人公の夏風日羽は、スパリゾートハワイアンズのフラガールとして採用された女の子。彼女と同期の4人の仲間達が切磋琢磨しながら成長していく姿を明るく爽やかに描いています。新社会人ならではの焦りや戸惑い、ひたむきさ、がむしゃらさはキラキラと眩しく、思わず「頑張れ！」と応援したくなります。作中では、日羽が訪れる場所として、アクアマリンふくしまなど実在の施設が複数登場し、ご当地小説としても楽しめる一冊です。

『奥会津昭和村 百年の昔語り 青木梅之助さんの聞き書きより』青木 梅之助/[述], 須田 雅子/著  
歴史春秋社 2021.10 L289/A62/1

大正10(1921)年生まれ、令和3(2021)年3月で100歳を迎えた、昭和村の青木梅之助さん(通称:うめおさん)への聞き書きをまとめた本です。昭和村で過ごした子ども時代、戦時中の軍隊での日々、戦後の生活が語られており、著者が真摯に聞き取り、書き起こしています。昭和村の方言での語りは、明るく軽やかかつ豪快で、まるですぐ隣でお話を聞いているような臨場感があります。貴重な昔語りの記録を、ぜひ聞いてみてください。